

「命を大切に」

勝山市立勝山中部中学校 2年 石井 みくる (いしい みくる)

みなさんは、誰かに必死で自分の思いを伝えたことはありますか。アナウンサーの方が必死で人々に訴えている姿を見て、思いがとても伝わりました。

2024年1月1日に起きた能登半島地震の時、私は家族と一緒に車の中に居ました。地震が起きた直後、車が大きくゆれ、スマホからは緊急アラートが鳴り、ラジオからアナウンサーの呼びかけの音が大きくなりひびいていました。あまりの出来事に怖さを感じました。能登半島の人達はもっと怖かったのではないかと思います。

このことがあって、私はなぜ、「今すぐ可能な限り高い所へ逃げる」とアナウンサーの方がいつもとは違う強い口調で呼びかけていたのか調べてみました。東日本大震災の反省から「命を守る呼びかけ」プロジェクトが立ち上がったそうです。NHKの災害報道に携わる人達が作り上げてきた「最大級の呼びかけ」が初めて音声化された瞬間が能登半島地震でした。このような必死な呼びかけで「大丈夫じゃないの」と思っていた人も避難を決意し、避難してよかったと思った人が多いそうです。また、「津波が来る、早く逃げて、命を守って」の呼びかけは本当に心に響き、避難した人もたくさんいたそうです。必死に自分の思いを伝えるということは、相手の心を動かし人の命を守る行動だということを感じました。私は、大きな声を出すことや言葉で思いを伝えることが苦手でなかなかできません。でも「言葉には力がある」ことを知ったので、発表の場などいろんな場で自信を持って自分の言葉で伝えられたらいいなあと思います。

能登半島地震から、4ヶ月たっても約4600人もの人達が避難していて、約3700戸の断水が続いていました。せっかく命を守れたのに、避難所で苦しむ生活を送っている人達がたくさんいます。避難生活で体調を崩す人もたくさんいます。そんな中で、自分がもしこの場にいたら中学生の私に何ができるか考えました。一つ目は、あいさつです。元気なあいさつで災害で沈んでいる人達を元気にしてあげたいです。二つ目は、そうじです。感染対策にもなり、きれいで気持ち良く過ごせるようにしてあげたいです。三つ目は、支援物資を取りに行けない人に配ったり、荷物を運ぶ手伝いをしたりして少しでも力になればいいと思います。四つ目は、小さい子と遊ぶことです。学校や保育園などは休みななので退屈しないように遊んであげたいです。少し考えただけでもたくさん自分にできることがありました。少しでも人のためになる行動ができる人になりたいです。

今回の地震を通して、私は「医療関係者になりたい」という大きな夢を持つことができました。これから先もっとたくさんの方のことを学び知識と行動を増やす努力で人の命を救ったり、気持ちを明るくしてあげたり、相手を支えたりできる人になりたいです。そのため、中学校生活でいろんなことに挑戦をし、多くの経験を積んでいきたいです。また、たくさんの方をいろんな場で笑顔にしてあげて、明るい気持ちにして、喜んでもらえるような行動を心がけていきたいです。